

国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

No. 253
2019.9▶10

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

発行日 2019年9月1日
編集・発行 一般財団法人千里文化財団

インタビュー
企画展

アルテ・ポプラル ——メキシコの造形表現のいま

会期:2019年10月10日(木)～12月24日(火)



企画展プロジェクト・ディレクター
鈴木紀教授に
お話をうかがいました！

「アルテ・ポプラル」とはメキシコを含むスペイン語圏で用いられる、民衆的な芸術を意味することばです。スペイン語には「アルテサニア」という民芸品を指すことばもありますが、「アルテ・ポプラル」は、それより洗練されたものというニュアンスがあります。専門的な訓練を受けた芸術家ではなく、職人や一般の人の作品という点では、アルテサニアと同じですが、造形や色づかいにも工夫をこらし、コレクションに値するような芸術性を帯びたものがアルテ・ポプラルです。ただし従来アルテサニアとされてきたものも、アルテ・ポプラルとよんでもよいとわたしは考えています。要は、観る人が美しさや創造性を感じることに、そしてつくり手の美意識を高く評価したいときに、その作品をアルテ・ポプラルとして捉えればよいのです。

企画展では「日常生活が反映されていること」「商品として流通していること」「人びとの主張が表現されていること」の三点をメキシコのアルテ・ポプラルの特徴として捉え、展示資料を選定しました。「日常生活」という点からは、先住民民族コラの儀礼用の仮面が該当します。「流通する商品」という点では、先住民民族ウィチョルの毛糸絵、観賞用の陶器や、旧約聖書のエデンの



ガイコツ人形 H0131678
(国立民族学博物館所蔵)



園の世界観を描いた「生命の木」を選びました。「主張の表現」は従来にない視点で、じつは、本企画展の一番の特徴と自負しています。公共空間である街路に何らかの主張を込めたアルテ・ポプラルが出現することとはメキシコでは珍しくないため、「カジェ(街路)」というセクションをつくりました。そして死をユーモラスに象徴するガイコツ人形や、政治的なメッセージを込めたストリート・アートを置いてみました。

親しみやすい芸術「アルテ・ポプラル」を切り口にメキシコに目を向けることで、メキシコ人の造形表現の面白さと美しさ、わたしたちとは異なる発想、そしてメキシコで育まれた文化を身近に感じてもらえれば嬉しいのです。

●『季刊民族学』170号でも企画展に関連する記事を掲載します。

友の会体験会員のご案内

観て！
読んで！
参加して！

展示も催しも刊行物も、秋のみんぱくを目一杯楽しんでいただきたくて、友の会の体験プランをご用意しました。ご登録から3カ月間、正会員と同様のサービスをお届けします。ご友人と一緒にみんぱくを楽しみたい方にはプレゼントとしての利用もオススメです。(詳細は友の会事務局まで)

キャンペーン期間

↓ 8.22 木
↓ 10.20 日

4,000円
3カ月間有効

開催中！

「特別展」

驚異と怪異
想像界の生きものたち

11月26日(火)まで
特別展示館にて

友の会でも関連する講演会や体験セミナーを予定しています。詳しくはP2、P3をご覧ください。



第82回体験セミナー、第94回民族学研修の旅は、ともに現在申込受付中です。

体験セミナーは特別展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」の開催にあわせて、怪異譚「稲生物怪録」の舞台となった広島県三次市と、『怪談』の作者小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が不思議な話を蒐集した島根県松江市を訪問します。不安や恐怖の心理が生み出した想像力の産物「怪異」。作品の舞台を歩きながら、怪異が生み出される背景、その精神的な営みをさぐる企画です。

民族学研修の旅は、陸路国境越えて行くベトナム・ラオスの旅。国土の7割を山地がしめる両国では、平地部に主要民族が、山間部に少数民族が多く暮らしています。そこでは、言語も生活様式も環境利用も異なる民族が、それぞれの土地に適応するために歴史を重ね、文化を育んできました。陸路の旅はそれを目にする絶好の機会です。ふたつの国を横断することで、中国式官僚国家（ベトナム）と東南アジア的仏教国家（ラオス）の連続性と断続性も感じ取ることができるでしょう。

いずれの旅も、ぜひご参加ください。

※旅程や旅行条件等、詳細を知りたい方にはチラシをお送りします。



日本妖怪博物館所蔵「(仮称)稲生物怪録絵巻」(部分)江戸時代



小泉八雲の肖像 松江時代 1891
(提供・小泉八雲記念館)



糸づくりをするレンテンの女性
(提供・櫻永真佐夫)

■第82回体験セミナー 【2日間】

もののけ怪道をゆく——稲生物怪録と小泉八雲を歩く

講師：植田 千佳穂（三次市学芸アドバイザー）

小泉 凡（小泉八雲記念館館長）

山中 由里子（民博教授）

期間：10月13日（日）～14日（月・祝）

申込締切 9月18日（水）

料金：コース A 52,000 円、コース B 56,000 円

定員：25 名（最少催行人数 17 名）

■第94回民族学研修の旅 【11日間】

ひと、もの、くにはじまりを探して 陸路で行くベトナム・ラオス

講師：櫻永 真佐夫（民博教授）

期間：11月22日（金）～12月2日（月）

申込締切 10月11日（金）

料金：379,000 円

定員：25 名（最少催行人数 15 名）

阪急うめだギャラリーにみんぱくコレクションが大集合！

国立民族学博物館コレクション 世界のかわいい衣装

本展では、みんぱくコレクションのなかから、「かわいい」をキーワードに選んだ、1920年代から現在までの衣装約120点が展示されます。世界各地で育まれてきた手仕事による鮮やかな色彩、地域独特の文様、形や着方の多様さを紹介します。ぜひ、足をお運びください。



スカート・ペレ



靴・中国

写真は国立民族学博物館提供

会期：11月13日（水）～11月25日（月）

会場：阪急うめだ本店9階 阪急うめだギャラリー（大阪市）

開場時間：日～木曜（午前10時～午後8時）

金・土曜（午前10時～午後9時）

入場料：一般600円、学生400円、小学生以下無料

会員割引あります！

国立民族学博物館友の会会員証をご提示いただくと、ご本人にかぎり、100円割引でご観覧いただけます。

主催：阪急うめだ本店/国立民族学博物館/千里文化財団

販売中！2020年みんぱくオリジナルカレンダー

驚異と怪異 想像界の生きものたち

会員価格 本体1,080円＋税
[定価1,200円＋税]

25cm×25cm

中綴じ/28頁/オールカラー

監修 山中由里子

協力 国立民族学博物館

発行 千里文化財団



なぜ人類はこの世のキワにいるかもしれない不思議な生きものを思い描き、形にしてきたのか？ 特別展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」の展示資料から厳選して2020年のカレンダーをご用意しました。

お問い合わせ・通信販売

国立民族学博物館ミュージアム・ショップ〈水曜日定休〉

e-mail: shop@senri-f.or.jp

オンラインショップ「World Wide Bazaar」

<https://www.senri-f.or.jp/www/html/>

10月の友の会講演会は第2土曜日に開催します。

■第493回■

【特別展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」関連】
対談 幻獣！——そこに在る不思議な生きもの

話者：湯本豪一(妖怪・幻獣研究者)
 山中由里子(民博教授)

日時：10月12日(土) 13時30分～14時40分

人類は、この世のキワにいるかもしれない異形のものや妖怪の類の姿を、心の内に生み出してきました。そのなかには、人魚や河童など、実在すると考えられていた不思議な生きものもいます。こうした幻獣は人びとの好奇心を刺激し、その存在の物的証拠が時に捏造されたりもしました。「物」としての幻獣は崇められたり、薬とされたり、見世物とされてきました。幻獣や妖怪など「不思議」を追い求め、集めてきた湯本豪一さんを招いて、幻獣の世界に分け入ります。

※講演会終了後、話者の案内のもと特別展を見学します(40分)。
 ※展示見学会にご参加の方は会員証もしくは特別展の観覧券が必要です。

■第494回■

マウシムを生きる人びとの歴史——一九世紀ペルシア湾の生業、交易、移動

講師：鈴木英明(民博助教)

日時：11月2日(土) 13時30分～14時40分

マウシムとはアラビア語で季節を意味し、「モンsoon(季節風)」の語源にもなっています。紀元後一世紀半ばの『エリュトラ海案内記』にも登場するモンsoonは、ただ航海時期と交易の季節を定めるばかりでなく、その影響下にある人びとの生業や航海活動に留まらない人びとの移動の時期も定めていました。本講演では特に一九世紀のペルシア湾に焦点を当てて、季節風と人びとの生業、交易、移動とがどのように連動しているのか、そしてそれが今日にどのように残っているのかを考えます。

※講演会終了後、講師を囲んで懇談会をおこないます(40分)。

イベントスケジュール

■企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年——「みられる私」より「みる私」」
 開催中～9/10(火)

■特別展「驚異と怪異——想像界の生きものたち」
 開催中～11/26(火)

■企画展「アルテ・ポプラー——メキシコの造形表現のいま」
 10/10(木)～12/24(火)

●友の会講演会

9/7(土) 古川不可知

10/12(土) 湯本豪一、山中由里子

●みんなくゼミナール(本館セミナー室ほか)
 9/21(土) 鈴木英明 10/19(土) 山中由里子

●みんなくウィークエンド・サロン

9/1(日) 山中由里子

9/8(日) ピーター J. マシウス

10/6(日) 笹原亮二 10/13(日) 三尾稔

10/20(日) 松尾瑞穂

●その他の催し

9/14(土) 本館展示無料観覧日

9/29(日) 研究公演「能と怪異(あやかし)」

10/17(木)、10/31(木) 企画展ギャラリートーク

10/20(日) 特別展示見学ツアー

10/26(土) ワークショップ「ソン・ハローチョを楽しもう」

10/27(日) 研究公演「ソン・ハローチョ——国境を越えるメキシコの歌」

【大阪】

●9/23(月・祝)(会場：グランフロント大阪北館)
 公開座談会「自然界から想像/創造する～Creature Creators' Symposium」

●10/8(火)(会場：グランフロント大阪北館)
 カフェ・ラボ対談「常ならざる音——見えないものを展示する」

【東京】

●9/14(土) 友の会東京講演会(会場：国立音楽大学)「世界の楽器を探る」

●10/4(金)(会場：KITTE 丸の内)
 ディスカッション「標本から想像/創造する」

◆都合によりスケジュールが変更になる場合があります。
 ◆イベントの参加には必ず会員証をご持参ください。

ぼくのみんぱく日記

画・中川洋典



みんなくの研究者が
 梅田に出張します!

阪急生活楽校

予告

12月の阪急生活楽校の講演会では、イタリアを中心とする南ヨーロッパを対象に調査をしている宇田川妙子教授にお話しいただきます。

詳細は改めてご案内します。

講師：宇田川 妙子(民博教授)

日時：12月11日(水) 14時00分～15時30分

会場：阪急うめだ本店9階 阪急うめだホール(大阪市)

会員による
 会員のための学習機会
**みんなく友の会
 雑学サロン**

9/21(土) ぶらぶら民族学「百舌鳥古墳群と堺市博物館」説明会
 ※実施日10/27(日)

10/19(土) ぶらぶら民族学「大阪城でフィールドワーク」説明会

日程：第3土曜日15:30～16:30

場所：本館2階 第7セミナー室

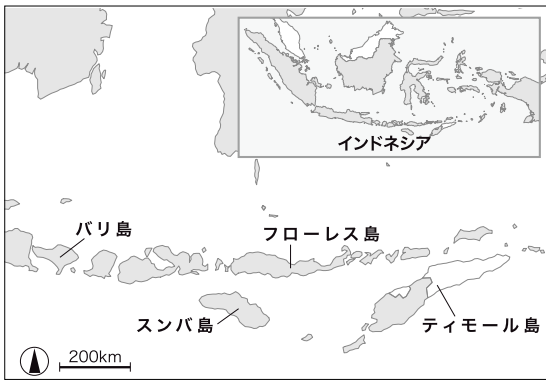
申込不要
 会場にて友の会会
 員証、フリーパスを
 ご提示ください。

問い合わせ先：田和、谷北、山本(実行委員) zatsugakusalon@gmail.com

インドネシア東部、 ヌサトゥンガラ諸島の 住まいを訪ねる

講師：佐藤 浩司

期間：2019年6月7日(金)～18日(火) [12日間]



■写真
猪股玲子さん 古口順子さん
高田真理さん 中坪功雄さん
事務局

■スケッチ
梶田道行さん



②カシューの実。先端の突起部分の殻のなかにウルシ含有の油脂分に包まれてナッツがある

参加者の記録とともに、旅の様子を報告します。

二〇一八年に続き、インドネシアの個性豊かな木造家を訪ねる旅に出かけてきました。一万を超える島々に二〇〇以上の民族が暮らすインドネシアでは、家屋や集落の配置や方位、その装飾やシンボリックな形状に、人びとの世界観を見ることが出来ます。今年は東部に位置するフローレス島、ティモール島、スンバ島をめぐる旅でした。

自然素材を利用する家は、少なからず電力に頼る現在の暮らしにおいて、火災を度々招くなど不向きに感じられる一面があります。一方で、窓のない漆黒の屋内、家や集落のいたるところに見られた祭祀的な空間、効率を優先すれば意味を見出すのが難しい大きな屋根、家の前や集落の中心に眠る祖先の墓を見るにつけ、住まいが人間のみの所有物ではないこと、人ひとりの存在が個人だけのものではないことを実感する旅になりました。観光資源として復元された村も訪問しましたが、共同体やそこで育まれた文化の維持、継承についても考える機会になりました。道中、丁子やカシュー、カシュー（ナッツ）など、わたしたちには珍しい植物を探して寄り道したのも楽しい旅の思い出です。



①スンバ島の集落



④ンガダ人の集落



③マンガライ人の集落

【行程】

■6月7日(金) バリ島

出国。インドネシアバリ島のデンパサールへ。

■6月8日(土) バリ島、フローレス島

空路、フローレス島へ。着後、世界最大のオオトカゲコモドドラゴンを探してリンチャ島へ。リンチャ島を含むコモド国立公園ではドラゴンの保全のために二〇二〇年より入島規制がおこなわれる。ボートでの帰路、漂海民バジャウの定住集落を訪問。⑥

■6月9日(日) フローレス島

以降四日間、フローレス島を西から東へ横断。初日はマンガライ人の集落を訪問。蜘蛛の巣のような円環状の水田で知られる彼らの家は巨大な円錐形の高床式住居。訪問したのは観光政策で復元された村。車でアクセスできる場所にあり現在は復元家屋のみ。伝統的な家屋は外壁に沿って家族ごとに仕切られ、講師が調査した一九八六年当時、別の村では、八家族五一人が同居する家があったという。③

■6月10日(月) フローレス島

朝、マンガライ人の特徴的な村落構造をのこす村を訪ねる。溶樹を植えた広場を囲んで家が並ぶ。広場は祖先の墓地でもある。市場を散策後、カカオ農園のあいだを縫って東へ。ヤシ酒の蒸留施設を見学。高木のロントルヤシを身ひとつで登り果実を採取する姿はお見事。途中、丁子やカシュー（ナッツ）の木を見つけて寄り道。②⑦⑧

■6月11日(火) フローレス島

早朝、有志で河原の温泉へ。朝食後、ンガダ人の集落を訪問。ンガダ人の集落は、広場を軸線に高床の家屋が向かい合って並ぶ。広場には男女の始祖をそれぞれ祀った祭祀施設や巨石記念物が配置されている。ひとつの村は保存集落に指定されており、細部は伝統的な構造が失われていたが、別のある村は村人総出で家を建てる準備をしていて生活感があふれていた。④⑤

■6月12日(水) フローレス島

クリムトゥウ山の早朝ハイキング。雨天でご来光は断念

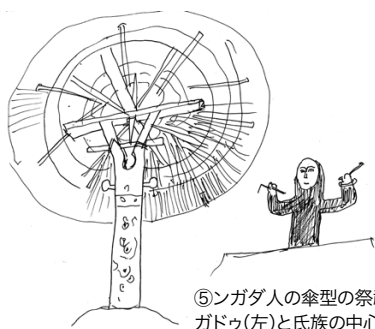
参加者の感想

一九八〇年代から仕事でインドネシアを訪れており、民族で独特の形状の屋根をもつ家屋や集落に関心がありました。多くの家で窓もなく光が入らない暗闇空間があり、家屋は単に「住む」場所ではなく儀礼の場でもあるという説明に納得。場所によつては母胎の象徴でもあるという話も頷け、内部空間もじっくり拝見できました。

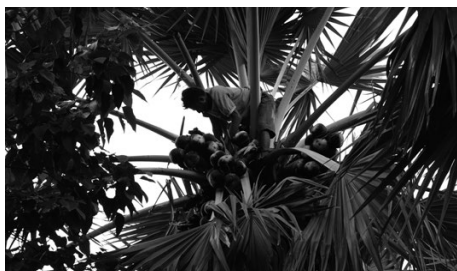
(井上保孝さん)

同じンガダ人の村でも、掃除の行き届いた家の軒下で機織りにいそしむ景観整備されたB村と、村人総出で竹を割り、屋根づくりをしているW村を訪れて「活きた村」のあり方を考えさせられた。マンガライ人の円環状の水田と住居空間・集落構造との共通思想、宇宙観を聞き出したときの講師の目の輝きは忘れられない。

(西村昌司さん)



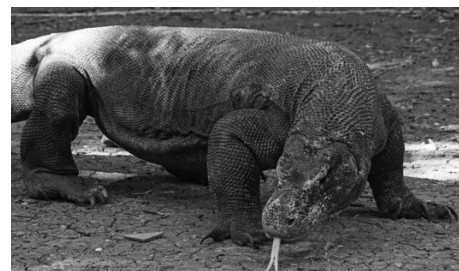
⑤ンガダ人の傘型の祭祀施設ンガドゥ(左)と氏族の中心家屋の屋根に飾られるサカ・ロポ(右)



⑧ロントルヤシの果実の採取。命綱をつけず木に登り、重い実を腰に下げておてくる



⑦フローレス島の市場。テンペやヤシ砂糖、生きたままのニワトリも売っている



⑥コモドドラゴン。大きいものは体長3mにもなるという



⑩ダワン人の村で踊りを鑑賞。自然染織の布も美しい



⑨リオオ人の集落。氏族の中心家屋は東インドネシア最大の木造建築



⑫伝統的な構造を維持するスンバ島の家。主柱に鼠返しがあるのは西部集落の特徴



⑪結婚式の準備。早朝さばいた豚を調理する

したが、下山後、麓の水田に沸く温泉に立ち寄った。朝食後、リオオ人の集落を訪問。祖先の墓地でもある円環状の広場を家屋が囲む。氏族の中心家屋はひととき大きく、東インドネシア最大の木造建築。講師の調査宅にお邪魔して窓のない屋内の暗さを実感する。部屋の隅、天井、仕切りの奥の小部屋など、家のいたる所に祭祀的な役割が見て取れた。⑨

■6月13日(木) フローレス島、ティモール島

空路、ティモール島へ。ティモール島は西半分がインドネシア領。着後、東ヌサトゥンガラ州の歴史と島々の手仕事を紹介する州立博物館を見学。宿泊先に向かう道中、ロティ島からの移住者が営むロントルヤシを加工する店に立ち寄る。ロ

ントルヤシは建築や手工芸の材料、食用にも利用される有用な植物。ロントルヤシの葉でつくった彼らの伝統楽器ササンドの演奏を楽しんだ。

■6月14日(金) ティモール島

ティモール島西部の主要民族ダワン(アトニ)人の集落へ。ダワン人の伝統的な家は核家族単位で暮らしていたという丸い家。見学した家は、日常的な居住空間としての機能は失われていたが、出産小屋としていまも利用されているという。村には小さいながらも権力の象徴であり、集会場としての機能をもつ穀倉もあった。最近まで外部との関係をもたなかったというその村では、村人の口上で迎えられ、王族の方から話を聞いた。踊りと食事でもてなしてもらった。⑩

■6月15日(土) ティモール島、スンバ島

空路、スンバ島へ移動。島民の三割が祖霊マラブを信仰するスンバ島の家の特徴は、中心が大きく突き出たところが屋根。マラブの居場所である屋根裏は家のなかでもっとも神聖な場所であり、人間の居住空間も儀礼活動と生活するための空間が区別して配置されている。

■6月16日(日) スンバ島

終日、スンバ島の集落を訪ねる。ある村は結婚式の準備で賑わい、ある村では島独自の騎馬戦パソーラを見せてもらった。訪問先のひとつは全焼したのちに再建した村。その隣の村で伝統的な構造を維持する古い家屋を講師が見つける。囲炉裏の煙に燻され、使い込まれた柱や床に相霊と暮らしをともにしてきた年月を感じる。⑪⑫

■6月17日(月) スンバ島、バリ島

空路、スンバ島からバリ島へ。塩づくりを見学したのち、バリ島の先住民バリ・アガ人の家を探す。屋敷のなかに用途の異なる建物を配置するのが彼らの家の特徴。観光化された村では建物それぞれの用途は変化していたが、伝統的な配置をのこす家を見つけることができた。ケチャダンスを鑑賞しながら夕食。その後空港へ。

■6月18日(火) 帰国。

■第489回■6月1日(土)

「陽気な墓」をとおして考える生と死

新免 光比呂 (民博准教授)

私たちの社会、文化、歴史には、死をめぐるさまざまな習慣、思想、イメージがあふれています。例えばルーマニアのマラムレシュ地方では、「陽気な墓」や教会に集う人びとの語りにみられるように、生と死が親しみあいます。世界の死のイメージについて、いくつかのトピックを選んで紹介しました。

の時の決着を待つ姿が典型的イメージである「穏やかな死」が一般的でした。一三世紀頃から生を組み伏せるもの、破壊者としての死のイメージが登場しました。そのなかで最も著しいのが腐食して壊れていく死体でした。一五、一六世紀になると若い娘もしくは恋人たち、あるいは快樂の最中における死という、生・死の対立が際立ちます。

まずは己の死について。死については、主體的(実存的)考察と客體的(客観的)考察の二通りが考えられます。死を経験することは誰にもできないので、個人的、集团的、社会的を問わず、他者の行為と言葉が対象になります。自身が癌に侵され、死と向き合った著名な宗教学者(岸本英夫氏)の手記から宗教社会学者による考察を紹介しました。

続いて民博展示場からは、いくつかの展示標本を取り上げて、「葬送」あの世とのつながり」という観点で死について考え、最後に、ルーマニアにおけるキリスト教の異教信仰との習合過程と、日本における仏教の民俗信仰との習合過程とを比較して、それぞれの死生観の変容の違いを考えました。

次にヨーロッパにおける死のイメージの歴史の変遷を図像学から紹介しました。中世初期には、横たわって永遠



亡き人を偲ぶ陽気な墓標 (2005年、サブツァ村)

■第490回■7月6日(土)

「企画展「サウジアラビア、オアシスに生きる女性たちの50年」―「みられる私」より「みる私」関連」

サウジアラビア女性の日常世界のいま・むかし

郡司 みさお (片倉もとこ記念沙漠文化財団理事)

藤本 悠子 (片倉もとこ記念沙漠文化財団事務局主事)

本講演会では、サウジアラビア女性の日常生活をテーマとして、半世紀の変化にせまりました。

一九六〇年代後半、文化人類学者の片倉もとこ(民博名誉教授)はサウジアラビア西部のオアシス、ワーディ・ファア



飾面を着けてナツメヤシの葉でござを編む女性 (撮影・片倉もとこ、写真提供・国立民族学博物館)

ティマにおいて、二年にわたり現地の人びとと生活をともしながら調査を重ねました。

大量に撮影された写真をもとに、おもに五つの側面(教育、仕事、結婚・子育て、服装、趣味・遊び・エンターテイメント)から女性の生活変化をたどることができま

す。仕事の面では、半世紀前のワーディ・ファアティマではテント織り、かご作り、一部地域で着用されていた飾面の部品作りなど内職が盛んでした。服装は、現在一般的な黒単色と異なり、半世紀前は外着・内着と

もに多様で色彩豊かで、頭・髪の覆い方、未婚・既婚にも違いがみられました。その変遷に参加者から深い関心と活発な質問が寄せられました。女性は半世紀を経て、家の外に生活の場を広げています。現在のサウジ人口は自国籍の約半数が二四歳以下ですが、女性のシングル化、少子化も進んでいます。講演では三人の女性のライフストーリーを紹介し、個人の視点からも半世紀を振り返りました。

講演後、香料や民族服飾の鑑賞、展示見学の間も設けました。もてなしの文化や男女空間を分けるなど、生活の根底にはイスラームの教えが流れ続けています。

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。

国立民族学博物館友の会

一般財団法人 千里文化財団

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)

電話: 06-6877-8893(平日9:00~17:00)

FAX: 06-6878-3716

e-mail: minpakutomo@senri-f.or.jp

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/



友の会提携館の休館のお知らせ

下記の友の会提携館が一時的に休館いたします。ご注意ください。

【島根県立古代出雲歴史博物館】

2019年11月18日(月) ~ 2020年4月23日(木)

【サントリー美術館】

2019年11月11日(月) ~ 2020年5月中旬